

三六八四番

秋あきの夜よを 長ながみにかあらむ なぞここば 眠いの寝ね
らえぬも ひとり寝ぬればか

三六八五番

足たらしひめ日女 御舟みふね泊はてけむ 松浦まつらの海うみ 妹いもが待まつべき
月つきは経へにつつ

三六八六番

旅たびなれば 思おもひ絶たえても ありつれど 家いへにある
妹いもし 思おもひ悲がなしも

三六八七番

あしひきの 山やまと飛とび越こゆる 雁かりがねは 都みやこに行ゆ
かば 妹いもに逢あひて来こね